

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な人々が集う定時制の課程で、勉強がわかる喜び・人に認められ人と理解し合える喜び・夢や志を抱く喜びを伝え、生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざす。

1. 生徒が自分の未来を創造できる学校
2. 生徒一人一人が大切にされる安全で安心な学校
3. 地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 勉強がわかる喜びを伝える

(1) 授業内容が「分かること」の楽しさを体験することで、「学ぶこと」に意欲をもつ生徒を育てる。

ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。

- ① 生徒の学力に応じたわかりやすい教材を作成し授業を行う。
- ② ICTや視覚教材を用いた授業および参加体験型の授業を導入し、生徒の学習意欲を高める。
- ③ 授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。

※学校教育自己診断で「学校の授業はわかりやすい」の肯定率（H28年度は80%）をH31年度には89%にする。

イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。

※学校教育自己診断の「授業中は落ち着いて学習できる雰囲気である」の肯定率（H28年度は66%）をH31年度には75%にする。

ウ ア、イを実践した結果として、授業に出席する生徒を増やし、中退防止につなげる。

(2) 教員の図書委員の取り組みを活性化し、生徒による図書室の利用を促進する。

2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

(1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。

ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率（H28年度77%）をH31年度には81%以上にする。

(2) 様々な教育活動で人と関わる体験を通して、コミュニケーション力の育成を図る。

ア 挨拶ができる生徒を育てる。

イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。

ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。

エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。

※学校行事等で来校する学校外部の人の数を、前年比5%を目標に増やす。

(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。

※保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率（H28年度87%）をH31年度には90%以上にする

(4) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整え、H31年度までに、文部科学省が公表する平成26年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の11.1%以下を目標とする。

※中退率 H26年度 20.6% → H31年度末 11.1%にする。

3 夢や志を抱く喜びを伝える

(1) 生徒が自己の将来について考え、自らの生き方を選択できるように進路指導の充実を図る。

ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。

イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。

ウ 就業体験をする生徒を増やす。

※卒業生徒の進路決定率（H28年度3月31日現在62.3%）をH31年度も60%以上を保つ。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導満足度」（H28年度86%）をH31年度には90%以上にする。

4 組織の活性化と人材育成

(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取組み

校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。

(2) 首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 (平成29年12月実施分)	学校協議会からの意見
<p>(肯定率：28年度→29年度)</p> <p>生徒用</p> <p>① 勉強がわかる喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材も使うなどの工夫をしている」肯定率64%→60% 教員には ICT の使用を奨励し、実際に多くの教員が取り組んだ。しかしながら 5 分間の休み時間にセッティングすることの困難さや、教材作りに多大な時間がかかることなどを主な理由に、使用が伸び悩んでいる。それらを打破するための新たな工夫やアイデアが必要である。 「学校の授業の内容に、ついていける」肯定率74%→76% 「学校の授業の説明は、わかりやすい」肯定率80%→78% <p>この3年間、全教員でわかりやすい授業実践に取り組んできた結果、上記のような高い数値で推移している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校の授業中は、落ち着いて学習できる」肯定率66%→64% <p>H28 年度より授業中の携帯電話の取り上げ指導を徹底した。また、H29 年度より業間遅刻の指導を強化したが、私語の多い授業があることは事実である。</p> <p>② 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている」肯定率80%→77% 行事を通した人間関係作りやコミュニケーション力の育成に力を入れた結果、高い数字での推移が見られる。 「学校生活についての先生の指導については理解できる」肯定率83%→81% 「担任の先生以外にも職員室、保健室等で気軽に相談することができる先生がいる」肯定率70%→62% 全教職員で生徒に寄り添う指導、生徒に対し傾聴の姿勢で臨むことに取り組んでいる結果としての数字である。指導を継続する。 「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」肯定率77%→79% 担任による人権 HR や外部講師による講演の結果、高い数字が出ている。 「学校の部活動は必要だと思う」肯定率72%→70% 部活動加入率は30%→32%に留まっている。今後も生徒に対する働きかけを続ける。 「自分は、あいさつをするようになった」肯定率77%→68% 挨拶指導は全教職員を上げての取り組みの一つであるが、10%近くの落ち込みは残念な結果である。一層の工夫が必要であると考え。 <p>③ 夢や志を抱く喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある」肯定率73%→79% 「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」肯定率83%→80% <p>3年間、また4年間の進路指導計画のもと計画的に進路指導を行った結果や、新たに卒業生による講演を実施するなど、進路担当、担任による一生懸命で粘り強い指導の結果が高い数字に結びついている。</p> <p>保護者用</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのは楽しいようだ」肯定率76%→86% 「学校の授業の内容はわかりやすいようだ」肯定率85%→91% 「学校の授業中は、落ち着いて学習できるようだ」肯定率77%→77% 「担任その他の教員に相談しやすい」肯定率82%→91% 「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」肯定率86%→83% 「学校の生徒指導の方針は理解できる」肯定率85%→94% 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」肯定率87%→86% 「本校に通学することで日常生活により影響を与えているようだ」肯定率77%→91% 「子どもは、以前と比べるとあいさつをするようになったと思う」肯定率79%→89% <p>など、いずれも非常に高い肯定率を得ている。これは教職員が日ごろから保護者に対して決め細かい連絡を取っている結果として、保護者の</p>	<p>第1回(6/30) H29年度学校経営計画について</p> <p>①「勉強がわかる喜びを伝えること」についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別のニーズに対応した授業を実施し、勉強のわかる喜びをひとりでも多くの生徒に感じてもらうことが必要である。 ローマ字入力ができない若者が増えている。生徒たちがキーボードを使えるようになってほしい。 ホームページを利用して、学校関係者しか見られないようにし、授業で使ったパワーポイントや教材をアップし、欠席した生徒が見れるようにすればよい。 インターネットで検索する力等をつけ、わからないことを、自分で解決する能力を養う必要がある。 授業の始めに、パワーポイントの資料を生徒に配付し、スライドの説明を聞きながら、メモを取らせるようにすれば、生徒がノートを書く分量が減って、話を聞くことに意識が集中できるのではないか。 <p>②「人に認められ人と理解しあえる喜びを伝えること」についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館をアクティブラーニングの場として活用してほしい。 ネット情報よりも、文献が信頼できる場合もあるので、その意味でも、図書館を十分に活用してほしい。 <p>③「夢や志を抱く喜びを伝えること」についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> P T A 定時制委員会の活動内容をもっとアピールし、多くの保護者の方に知っていただければどうか。 <p>第2回(11/29)</p> <p>①3つの授業を見学した後の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常にわかりやすい授業だった。5分間程度しか見学できなかったのが、授業のその後の展開が気になった。 動画を見ながらプリントを埋めていく授業では、生徒の集中力が要求されると思ったが、生徒は一生懸命取り組んでいた。 教室が寒かった。遅刻者のために、教室の前扉を開けっ放しにしているのか？ 楽しく参加した。もっと聞いていたいと思った。 生徒が少人数で、教員が生徒一人ひとりに声かけをしているのが印象に残った。 次回、授業見学をする際は、前半の5分だけの見学ではなく、その後、授業がどのように展開していくのかわかるように、同じ授業の後半の時間に、もう1回見学できるようにしていただきたい。 <p>②第1回授業アンケート結果についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を分析し、改善点を見出すことが大切である。 全校平均のポイントは下がっているが、それほど大きな下降ではない。 全教室にプロジェクターが設置されたため、ICT 機器の準備・片づけが容易になるので、さらなる ICT 活用を期待したい <p>③分掌の取組みの進捗状況についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活において、生徒自身が考え、意見を言うことに配慮し、生徒一人ひとりのことをよく考えてもらっている。 生徒が様々な経験を通して自信をつけることが大切だ。 多くの中学生が定時制高校でやり直せることがたくさんあるということを知ってほしい。 生徒や保護者が「とりあえず高校に行けば何とかかなる」ではなく、どう社会と関わるかを考えて選択肢の一つとして定時制を考えている。 高校で勉強することが何に役立つのか、高校卒業した後、次はどうするかが見えてくれば、現在の学校生活が定着するだろう。就労までを見据えた上で進学を考えていかなければならない。 <p>第3回(2/23)</p> <p>①「勉強がわかる喜びを伝える」ことについての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書室が居場所のひとつになるよう、積極的に活用してほしい。 生徒が読みたい本を聞くことも方法の一つである。 わかりやすい教材プリントは生徒の学習意欲につながっている。さらにわかりやすく丁寧に作成し、活用してほしい 引き続き、わかりやすい授業作りを工夫し、登校意欲向上につなげてほしい。 <p>②「人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える」ことについての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事を通して、積極性を養い、成功体験を増やすことは 生徒の自信を育てる大切な機会となっている。今後さらに学校行事の充実をお願いしたい。 学校行事では、大幅に外部からの入場者が増加している。地域の方々に定時制の生徒の様子を見ていただき、地域に支えられる学校でありたい。 <p>③「夢や志を抱く喜びを伝える」ことについての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導において、様々な人たちの体験談を聞く企画を増やすなど、内容を充実させてほしい。 人間関係の基本である「あいさつ」ができる人間に育ててほしい。 アルバイト等の就業体験を通して、基本的な勤労意欲やマナーを身につけてほしい。

府立寝屋川高等学校

方々が学校の教育活動に理解を示していただいているからであると考え
る。

④ 全般的な提言

・生徒自身が寝屋定に来てよかったと思える。保護者が学校に通っている子どもの表情や変化を見て安心できる。そんな学校作りを期待する。

本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																											
1 勉強がわかる喜びを伝える	(1) 「分かること」の 楽しさを体験できる 授業づくり ア 生徒が「分かった」 と実感できる授業づ くりに取り組み、学 力の定着及び出席者 の増加を図る イ 授業規律について 指導する意識を共有 し、生徒が落ち着い て学習できる環境づ くりを努める。 ウ ア、イを実践した 結果として、生徒の 授業への出席率を増 やし、中退防止につ なげる。	ア・わかりやすい授業をする ・授業の中で生徒に考えさせる時間を取る ・授業の中で生徒とコミュニケーションを取 る ・生徒の学力に応じた教材の作成や補助教 材（ICTや視聴覚教材）の使用等によ り工夫して授業を行う ・授業中に生徒の知識・技能の定着をはか る ・授業見学、研究授業、研修等により、各 教員が指導法の工夫・改善に取り組む。 その際に教育実践に役立つよう内容を精 査する イ ・授業中の携帯電話指導を継続する ・授業遅刻に対する指導を強化する	ア・学校教育自己診断で「学校の授業の 説明はわかりやすい」の肯定率を 3%上げる（H28, 80%） ・授業アンケート「授業内容に興味関心 を持つことができた」の学校平均を 0.05 上げる（H28, 3.17） ・「先生は授業中生徒とコミュニケーショ ンを取っている」の学校平均を 0.05 上 げる（H28, 3.36） ・「先生は様々な教材を工夫して授業を行 っている」の学校平均を 0.05 上げる （H28, 3.27） ・「授業を受けて知識や技能が身に付い た」の学校平均を 0.05 上げる （H28, 3.22） ・年3回以上研究授業や授業研修を行う イ ・授業アンケート「私は授業中、携帯・ 居眠り・私語をしていない」の学校平均 0.05 上げる（H28, 3.45） ・学校教育自己診断で「落ち着いて学習 できる雰囲気である」の肯定率を3%上 げる（H28, 66%） ウ・H28 年度中退率（18.8%）より3%下 げる。	ア・学校教育自己診断で「学校の授業 の説明はわかりやすい」の肯定率は 78%（△） ・授業アンケート2回目「授業内容に 興味関心を持つことができた」の学 校平均が0.07 下がった（△） ・「先生は授業中生徒とコミュニケーシ ョンを取っている」の学校平均は 0.03 下がった（△） ・「先生は様々な教材を工夫して授業を 行っている」の学校平均は0.10 下が った（△） ・「授業を受けて知識や技能が身に付 いた」の学校平均は0.09 下がった （△） ・以上の5項目は、いずれについても 目標は達成されていない。次年度、新 たな方策を考え、再度授業力向上に取 り組む予定である。 ・2回の授業見学週間、1回の授業研 修を実施（○） イ ・授業アンケート「私は授業中、携帯・ 居眠り・私語をしていない」の学校 平均0.22 下がった（△） ・学校教育自己診断で「落ち着いて学 習できる雰囲気である」の肯定率が 2%下がった（△） ・28 年度より実施の授業中に携帯使用 を禁止する取り組みは、大体におい て軌道に乗っているが、教員によっ てはまだ見逃している場合もあり、 より指導を徹底することが次年度に 向けた課題である。 ウ・1月末現在の中退率は8%（○）																											
	(2) 教員の図書委 員の取り組みを活性 化し、生徒による図 書室の利用を促進す る	(2) 図書室利用に関する月ごとの統計を取り、 生徒の利用を促す取り組みをする。	(2) 毎月の生徒の図書室利用の増加	(2) 毎月の生徒の図書室利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>人</th> <th>月</th> <th>人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>86</td> <td>11</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>50</td> <td>12</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>85</td> <td>1</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>21</td> <td>2</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>125</td> <td>計</td> <td>706</td> </tr> </tbody> </table>	月	人	月	人	4	4	10	47	5	86	11	50	6	50	12	98	7	85	1	33	8	21	2	107	9	125	計
月	人	月	人																												
4	4	10	47																												
5	86	11	50																												
6	50	12	98																												
7	85	1	33																												
8	21	2	107																												
9	125	計	706																												

・今年度は図書室の利用人数が増える
ように様々な工夫をしたが、次年度
は生徒が本を借りて読むことにつ
いても考えたい。

<p>2 人に認められ、人と理解しあえる喜びを伝える</p>	<p>(1) 基本的な倫理観や規範意識を育てる。 ア 教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通じた指導</p> <p>(2) 人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ア 挨拶ができる生徒を育てる。</p> <p>イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる</p> <p>ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。</p> <p>エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。</p> <p>(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。</p>	<p>(1) ア・外部人材等を有効活用し、HR及び総合的な学習の時間を計画的に実施することで、「学ぶこと」・「生きること」・「社会とのかかわり」について考える機会を設ける。</p> <p>(2) ア・教職員から生徒に積極的に挨拶するとともに、挨拶をすることの大切さについて生徒に伝える機会を設ける。 ・始業・終業時に挨拶ができるようにする。</p> <p>イ・生徒を中心とした生徒会行事の企画運営を行う。 ・行事に参加する生徒の人数を増やす。</p> <p>ウ・各種行事に対する広報活動の活発化 ・体育祭・文化祭へ地域の方を招待する</p> <p>エ・ボランティア活動の継続 ・部活動の活性化をする</p> <p>(3) ・生徒に対し傾聴し、理解し、話し合いによる指導を実践する ・HP等で学校の情報を発信する</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心にSCやSSWとともに、困難を抱える生徒への支援体制を整え、生徒個々に対応した指導をおこなう。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を3%向上させる (H28, 77%)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「自分は挨拶をするようになった」の肯定率を3%向上させる (H28, 77%)</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている」の肯定率を3%上げる (H28, 80%) ・行事の生徒参加率を体育祭を3%増やす。文化祭を4%増やす。(H28, 体育祭 49.4%、文化祭 46.5%)</p> <p>ウ・体育祭、文化祭に来校する保護者、地域住民、中学校教員の人数を前年度より増やす (H28、合計 337名)</p> <p>エ・ボランティア活動の継続 ・部活動加入率 (H28, 30%)を3%増加させる</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率を2%上げる (H28, 83%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率を1%上げる (H28, 87%)</p> <p>(4) 中退率を3%下げる (H28, 18.8%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率2%向上 (△)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「自分は挨拶をするようになった」の肯定率9%下がった (△) ・昨年度と同じように全校集会や放送集会等であいさつの大切さと呼びかけていたのだが残念な結果である。新たな視点を加えた取り組みを考える必要がある。</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている」の肯定率が3%下がった (△) ・行事の生徒参加率、体育祭が2%増えた (△) 文化祭が5%増えた (○)</p> <p>ウ・体育祭、文化祭の外部来校者人数が、100人増えた (○) ・体育祭・文化祭はこの3年間で大きな盛り上がりを見せている。文化祭は1日開催から2日開催になり、2行事合わせた外部来場者数が4年前は210名であったが、今年度は437名と2倍以上に増えている。</p> <p>エ・ボランティア清掃は昨年同様5回実施された。参加者が徐々に増えている (○) ・部活動加入率が2%増加 (△)</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率が2%下がる (△) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が1%下がった (△)</p> <p>(4) 中退率は1月末現在で8% (○)</p>
--------------------------------	--	---	---	---

府立寝屋川高等学校

<p style="text-align: center;">3 夢や志を抱く喜びを伝える</p>	<p>(1) 進路指導の充実を図る。</p> <p>ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。</p> <p>イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。</p> <p>ウ 就業体験をする生徒を増やす。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路のHRや総合的な学習の時間を進路指導計画の中で明確に位置づけ、情報提供を行う。 ・外部機関と連携し、生徒が色々な人の生き方に触れる機会を設ける ・生徒に提供した情報が保護者にも届くようにする。 <p>イ・担任が生徒と十分話し合うとともに、担任が進路担当者との連絡を密にする。</p> <p>ウ・一人でも多くの生徒が就業体験ができるように、アルバイト等を紹介する。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率を3%上げる (H28, 73%) ・学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率を3%上げる (H28, 86%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率を3%上げる (H28, 86%) ・卒業生の進路決定率が平成26年度は高く60%であった。(H24, 40%、H25, 50%、H27, 55.8%) H29年度も60%をめざす <p>ウ・生徒の5月時点の就業率よりも年度末の就業率を5%高くする。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率が6%上がる (○) ・学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率が3%下がった (△) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率が3%下がった (△) ・卒業生の進路決定率は3月末時点で73.2% (◎) <p>ウ・生徒の1月の就業率は5月時点の就業率よりも3%下がった。(△)</p>
<p style="text-align: center;">4 校内組織の活性化と 人材育成</p>	<p>(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取組み</p> <p>ア 校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。</p> <p>(2) 首席を中心に経験年数の少ない教員の育成に取り組む</p>	<p>ア・本校の将来めざすべき方向性、取り組むべき施策、解決すべき課題について具体的な取り組みを話し合い提案する。</p> <p>(2)・首席が中心となり、経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を計画し、実施する。</p>	<p>ア・具体的な提案がなされたか</p> <p>(2)・年間に3回以上の育成のための研修が実施できたか</p>	<p>ア・具体的な提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策マニュアルの見直し ・授業における平常点の割合を3割程度から30~50%に変更 (○) ・定期テストの点数以外の部分を積極的に評価に加味し、低学力生徒の進級を支援する目的で実施した。 <p>(2)・経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を1回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等支援学校への見学会を1回実施 (△)